実践事例 1

入学プレテストと春休み課題で学習習慣を定着させる

東京都 狛江市立狛江第三中学校

生徒の問題行動が多発していた狛江市立狛江第三中学校。小学校と連携し、中学生としての自覚を促すと共に、小学校卒業後の春休みの時期から生活習慣や学習習慣の指導を取り入れている。

課　題

- 中学生にふさわしい生活習慣が身に付いていないため、生徒指導上困難な状況が続いていた
- 学力差が開きやすい国語、算数の学力把握が、入学後すぐに出来ていなかった

実　践

- 3月第1週に小学校で「入学プレテスト」を実施。中学校への緊張感を高めると共に、新入生の学力把握に役立てる
- 「入学プレテスト」当日に「春休みの生活と学習～中学生へのスタート～」と題したしおりを配布。春休み中の目標や生活記録を書かせるのに加え、国語、数学の学習課題に取り組ませることで、生活習慣や学習習慣が崩れるのを防ぐ
- 各教科の最初の授業で「オリエンテーション」を行い、中学校での学習の仕方を教える
- 教科ごとに学習の進め方や1年間の流れなどをまとめた「シラバス」を作成。生徒が見通しを持って学習できるようにする
- 年2回、夏休みと冬休みの前に、学習状況を振り返る「学習の記録」を行う

成　果

- 学習習慣が早期に身に付き、学校も落ち着きを取り戻した
- 中学校生活のスタートに向けて、保護者の意識も高まった
- 継続的な学習の成果で、市の学力状況調査の成績が向上した

School Data

◎1973（昭和48）年開校。2008年度、生活指導などの成果より、東京都教育委員会から「学校経営の改善」を主な功績として表彰を受ける。10年度に狛江市教育研究奨励校の指定を受ける。

校長◎斉藤茂好先生

生徒数◎248人　学級数◎7学級

所在地◎〒201-0013　東京都狛江市元和泉 1-23-1

TEL◎ 03-3489-5416

URL◎ http://www.komae.ed.jp/jh/03/

公開研究会◎ 2011年2月3日（木）

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第3回

中学校導入期に学習習慣を定着させる

意識改革と学力把握のため「入学前」に着目

狛江第三中学校は、東京都心のベッドタウンとして発展してきた狛江市の西部に位置する小規模校だ。同校は、生徒指導が難しい状況が長らく続いていたが、5年ほど前から生活習慣や学習習慣の改善を図る指導に力を入れてきたことで、近年は落ち着きを取り戻した。

生徒の変化に伴い、保護者や地域からの信頼も高まり、「共に生徒を見守る」という良好な関係が強まった。斉藤茂好校長は、次のように取り組みを振り返る。

「苦しい時期もありましたが、諦めずに取り組みを続けることで、生徒の姿は徐々に変わっていきました。『教師の働き掛けによって、生徒は必ず変わる』という実感は、先生方の自信の源となっています」

そんな同校では、学習習慣を付けさせる指導において、「入学前」の時期に着目した指導の充実に取り組んできた。同校の校区には二つの小学校があるが、生徒の9割は1校の小学校から入学してくる。同級生の顔ぶれがほとんど変わらないためか、生徒は中学生になることへの自覚を持ちにくく、「中学生になったからしっかりやろう」という意識の切り替えが出来ていないようだった。

更に、入学後、国語や数学は学力差が大きく開きやすいため、出来るだけ早い時期に生徒の学力を把握して対策を講じる必要があった。小学校から指導要録の抄本は送られてきていたが、3段階の絶対評価であるため、生徒一人ひとりの学力は、授業がある程度、進むまで分からなかった。

入学プレテストが中学校の始まり

これらの問題意識から、2006年度に始めたのが「入学プレテスト」だ（P.12図1）。3月第1週の放課後、同校に入学予定の小学6年生を対象に、小学校で国語と算数のテストを実施する。

テストは、同校の教師が中学1年生での学習内容を意識して作成。小学校での学習内容からまんべんなく、基礎的な問題を中心に出題する。試験時間は2教科合わせて40分間で、どちらの教科を先に解いても良い。出来るだけ小学校側の負担とならないよう、当日は中学校の教師が小学校に出向いてテストの説明をし、試験監督も行う。

教務主任の國井千鶴子先生は、テストを受ける小学生の姿から手応えを感じていると話す。

「中学校の教師が試験監督をするため、子どもはかなり緊張します。かえってそれが良い刺激となり、『中学校の始まり』と意識して取り組むようです。解答用紙を見ると、学力が定着している子どもも、そうでない子どもも、皆、一生懸命に解こうとしている気持ちが伝わってきます」

答案は担当教科の教師が採点。中学入学後、最初の授業で返却し、解説もする。この授業が小学校の学習内容の復習にもなり、以前に比べて国語や算数の授業の導入はスムーズになった。

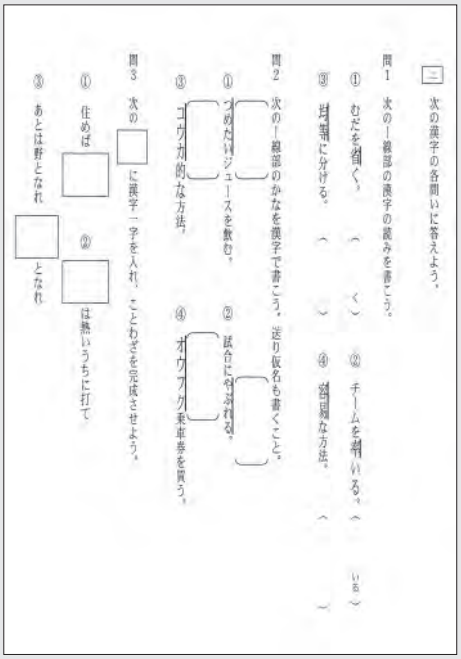
入学前に、生徒の学力に関する詳細な情報が得られる利点も大きい。入学後すぐに始める数学の少人数授業では、テストの結果から生徒一人ひとりの学力を把握しておき、クラス編成に活用している。学年全体の弱点も浮かび上がるため、「今年度はこの単元を手厚く指導しよう」などと指導計画にも反映している。

狛江市立狛江第三中学校校長
斉藤茂好 Saito Shigeyoshi
「どのような状況でも、諦めずに地道な努力を続けられる主体性のある生徒を育てる」

狛江市立狛江第三中学校
國井千鶴子 Kunii Chizuko
教務主任。英語科担当。「エネルギーにあふれ、一人立ち出来る力を持つ生徒を育てる」

狛江市立狛江第三中学校
中村嘉男 Nakamura Yoshio
生活指導主任。3学年担当。社会科担当。「打たれ強く、困難にめげない強さを生徒に持たせたい」

図1　「入学プレテスト」国語・算数



二　次の漢字の各問いに答えよう。

問1　次の一線部の漢字の読みを書こう。

①　むだを省く。（　　く）　②　チームを割いる。（　　いる）

③　均等に分ける。（　　）　④　細かな方法。（　　）

問2　次の一線部のかなを漢字で書こう。送り仮名も書くこと。

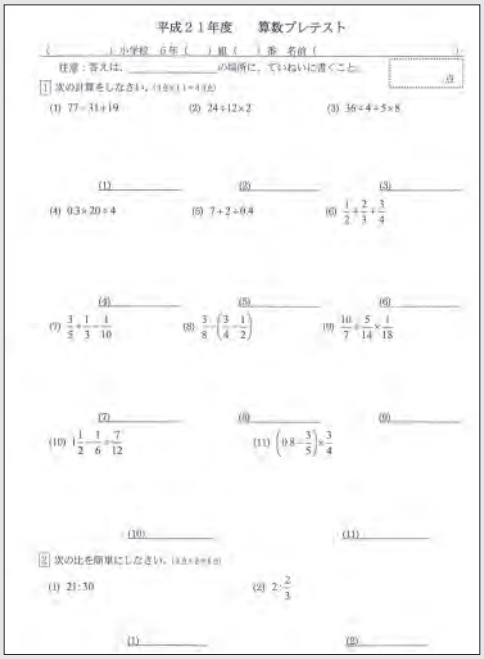
①　つめたいジュースを飲む。（　　）　②　試合に勝される。（　　）

③　コウカ的な方法。（　　）　④　オウフクの乗車券を買う。（　　）

問3　次の□に漢字一字を入れ、ことわざを完成させよう。

①　住めば□　②　□は熱いうちに打て

③　あとは野となれ□となれ



平成２１年度　算数プレテスト

（　　）小学校　６年（　）組（　）番　名前（　　）

注意：答えは、　　の場所に、ていねいに書くこと。　　点

1　次の計算をしなさい。（1問6）（1＝4点）

(1) 77－31＋19　(2) 24÷12×2　(3) 36÷4÷5×8

(1)　(2)　(3)

(4) 0.3×20÷4　(5) 7÷2÷0.4　(6) $\frac{1}{2}\div\frac{2}{3}+\frac{3}{4}$

(4)　(5)　(6)

(7) $\frac{3}{5}\div\frac{1}{3}-\frac{1}{10}$　(8) $\frac{3}{8}\div\left(\frac{3}{4}-\frac{1}{2}\right)$　(9) $\frac{10}{7}\div\frac{5}{14}\times\frac{1}{18}$

(7)　(8)　(9)

(10) $1\frac{1}{2}-\frac{1}{6}\div\frac{7}{12}$　(11) $\left(0.8-\frac{3}{5}\right)\times\frac{3}{4}$

(10)　(11)

2　次の比を簡単にしなさい。（1点×2＝6点）

(1) 21:30　(2) $2:\frac{2}{3}$

(1)　(2)

国語・算数共にＡ４版１枚のプリントの表裏に問題が印刷されている。平均点が６、７割になる難易度にしている

るため、「入学プレテスト」当日、春休み中の目標や毎日の生活記録、国語と算数の２週間分の練習問題などが含まれた「春休みの生活と学習～中学生へのスタート～」というしおりを配布し、春休みが新しい学校生活に向けての大切な準備期間であることを説明する。

「小学校卒業式から中学校の入学式までの約３週間は、小学校と中学校のどちらの指導もなされない『空白』の期間でした。この時期に中学校に対する期待感や緊張感を高め、小学校とは異なる学習習慣や生活習慣を少しでも身に付けられれば、中学校への接続がスムーズになると考えました」（斉藤校長）

「空白」期間の春休みを埋める学習課題を小学生に配布

小学校卒業式後の春休みも、重要な指導の場と位置付ける。新入生が規則正しい生活を送り、学習習慣を途切れさせないようにする。

生活記録の部分には、毎日どのように過ごしたのかを記入する。自ずと生活習慣が意識される仕組みだ（**図２**）。学習習慣が定着している生徒、遊びを優先する生徒、夜更かしが目立つ生徒など、一人ひとりの生活の様子や家庭の状況が手に取るように分かる。入学式当日に提出させ、それらの情報を基に「まずは生活指導を徹底したほうが良さそうだ」など、生徒個々の指導を検討する。

練習問題は、学習習慣の定着に加え、中学校の学習への準備として小学校の学習内容を復習させるねらいがある。

「国語と算数共に、１日10分ほどで解ける程度の内容です。家庭学習の量としては多くはありませんが、春休み中も気を抜かず、毎日、学習を続けてもらうことを重視しています。例年、すべての生徒がしっかり問題を解いてきます」（國井先生）

保護者の協力も得ながら生徒の生活習慣を改善

しおりには、保護者が春休み中の子どもの生活についてコメントを書く欄も設けた。生活指導主任の中村嘉男先生は、そのねらいを次のように説明する。

「子どもが、自分だけの力で生活習慣や学習習慣を改めるのは困難です。保護者にも、中学校への進学を機に、小学校時代からの意識を変えていただかなくてはなりません。毎年２月に行う保護者説明会では、『入学プレテスト』やしおりのねらいを説明し、入学時に良いスタートが切れるよう春休みを有意義に過ごすための支援をお願いしています」

春休み中の指導について、保護者の大半は協力的だ。コメント欄を通じて次のような声

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第3回

中学校導入期に学習習慣を定着させる

が寄せられている。

「1日の行動記録を見て、テレビやゲームの時間が長いことに驚かされました。進学を機に、親子で話し合い改めたい」「春休みも学習する機会が出来たことで、メリハリのある生活が送れたようです」「『入学プレテスト』や春休みのしおりで、子どもも中学生になるという自覚が高まっていたようです」

導入期の指導が、子どもと保護者が共に学習や生活について考え直すきっかけになっていることが分かる。

小学校との密な連携が取り組みの土台

これらの取り組みには、小学校の協力が不可欠となる。同校は日頃から小学校と連携し、その土台を築いている。

「一般的に、中学校の教師が小学校に立ち入って指導することには、物理的にも心理的にも大きな壁があります。その点、本校が取り組みをスムーズに進められたのは、以前から小学校との連携を重視して信頼関係を築いてきたことが大きな要因としてあると思います」（斉藤校長）

同校では、年2回「小中連携の日」として、小・中学校の教師が相互に授業を参観し、意見交換をする場を設けている。このうち1回は狛江市の公立学校共通の取り組みだが、もう1回は同校が独自に企画しているものだ。

また、狛江市が実施する学習状況調査のうち、同校1年生の結果を小学校に伝えて共有するほか、中学校の教師が小学校を訪問してワークショップを指導したり、春休み中に希望する部活動への「プレ入部」を行うなど、継続的な交流を大切にしている。

「小学校の先生方との間には、その年の6年生の傾向や気になる子どもの情報などを気軽に伝えてもらえる関係が出来ていますし、私たち自身が小学生に接する機会もあります。『入学プレテスト』の結果も合わせて、新入生の状況を十分に把握して4月を迎えています」（中村先生）

シラバスや「学習の記録」で入学時の意欲を継続させる

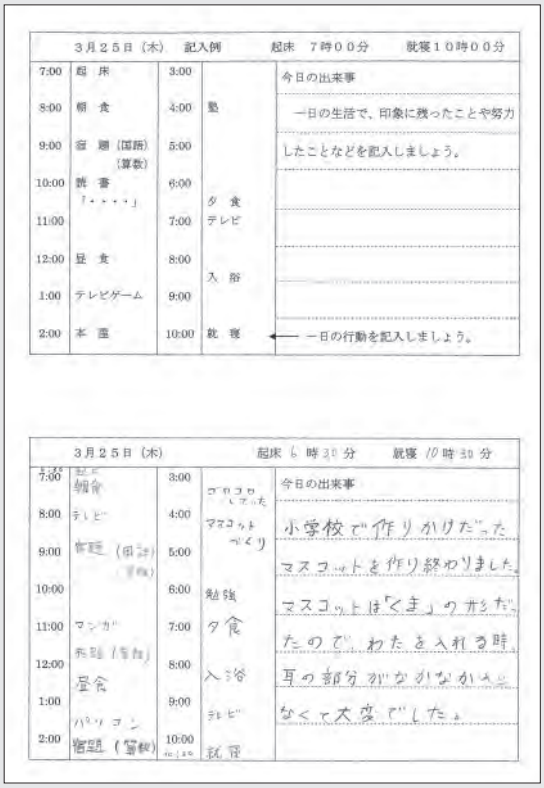
生徒が入学当初に抱く緊張感を、主体的に学ぶ姿勢につなげる工夫もする。

かつては入学式から授業が本格的に始まるまで1週間ほどかかり、せっかく意欲を持って入学しても、その間に生徒の気持ちが緩みがちだった。

そこで、年間計画を見直し、時間割作成の早期化に取り組み、入学3日目から授業を行うようにした。初回の授業では、どの教科もオリエンテーションを行う。授業の進め方や学習上の注意点、家庭学習の方法、テスト前の学習法、評価基準など、共通項目を教科ごとに整理した「シラバス」（P.14図3）を配布し、それを見ながら中学校での学習について説明する。1年間の学習内容の流れも提示し、見通しを持って学ぶように促している。

「1年生のオリエンテーションでは、自ら進んで学んだり工夫したりする大切さなど、

図2　「春休みの生活と学習」の生活記録



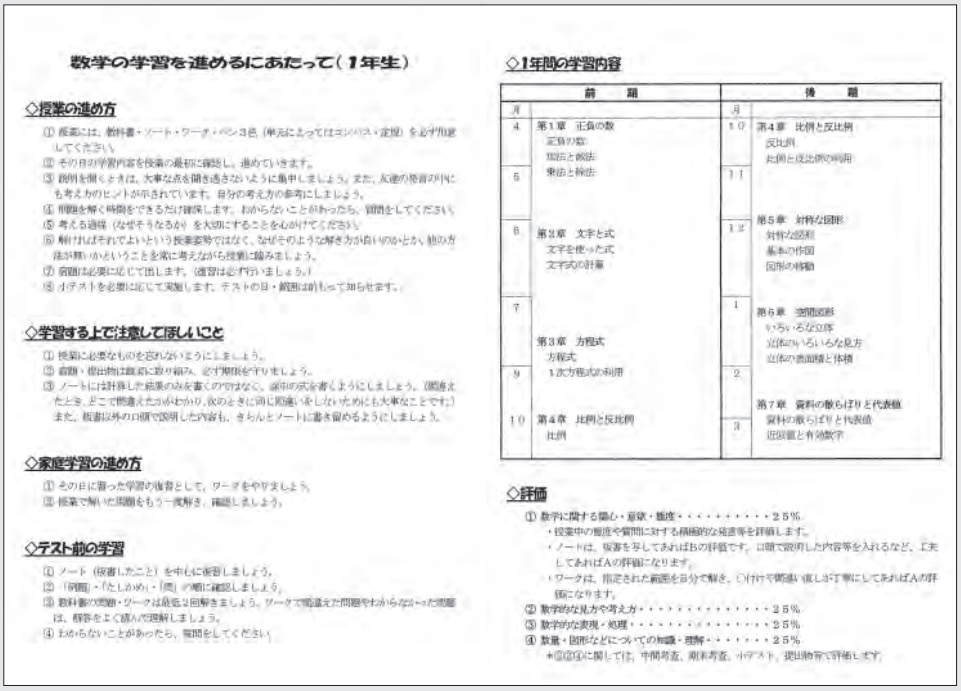
春休みの生活の様子をチェックすることで、一人ひとりの学習量だけでなく、家庭での過ごし方や興味・関心なども把握できる

中学生に求められる学習の方法や意識について重点的に説明し、小学校との違いを明確に意識させます。生徒を学習に向かわせる上で重要な役割を果たしています」（國井先生）

更に、1年を通して学習意欲を保つ工夫が、夏休みと冬休みの前に配布する「学習の記録」（図4）だ。教科ごとに用意する用紙には、生徒が自己評価を記入するスペースと、教科担当の教師が学習や提出物などの状況を細かく評価するスペースを設けている。生徒が自分の学習を振り返るきっかけにすると共に、三者面談の資料として活用する。必要に応じて、各教科担当の教師が個別に「ガイダンス」を実施し、学習の仕方をアドバイスしたり、長期休業中の補習への参加を促したりしている。

「『学習の記録』は通知表に比べて、評価が具体的に記されているため、『自分はこの部

図3　「シラバス」数学の例



数学の学習を進めるにあたって（1年生）

◇授業の進め方

① 授業には、教科書・ノート・ワーク・ペン3色（単元によってはコンパス・定規）を必ず用意してください。
② その日の学習内容を授業の最初に確認し、進めていきます。
③ 説明を聞くときは、大事な点を聞き逃さないように集中しましょう。また、友達の発言の中にも考え方のヒントが示されています。自分の考え方の参考にしましょう。
④ 問題を解く時間をできるだけ確保します。わからないことがあったら、質問をしてください。
⑤ 考える過程（なぜそうなるか）を大切にすることを心がけてください。
⑥ 解ければそれでよいという授業姿勢ではなく、なぜそのような解き方が良いのかとか、他の方法が無いかということを常に考えながら授業に臨みましょう。
⑦ 宿題は必要に応じて出します。（復習は必ずやりましょう。）
⑧ 小テストを必要に応じて実施します。テストの日・範囲は前もって知らせます。

◇学習する上では意識してほしいこと

① 授業に必要なものを忘れないようにしましょう。
② 宿題・提出物は期日に取り組み、必ず期限を守りましょう。
③ ノートには計算した結果のみを書くのではなく、途中の式を書くようにしましょう。（間違えたとき、どこで間違えたかがわかり、次のときに同じ間違いをしないためにも大事なことです。）また、板書以外の口頭で説明した内容も、きちんとノートに書き留めるようにしましょう。

◇家庭学習の進め方

① その日に習った学習の復習として、ワークをやりましょう。
② 授業で解いた問題をもう一度解き、確認しましょう。

◇テスト前の学習

① ノート（板書したこと）を中心に復習しましょう。
② 「例題」→「たしかめ」→「問」の順に確認しましょう。
③ 教科書の問題・ワークは最低3回解きましょう。ワークで間違えた問題やわからなかった問題は、解答をよく読んで理解しましょう。
④ わからないことがあったら、質問をしてください。

◇1年間の学習内容

月	前期	月	後期
4	第1章　正負の数 正負の数 加法と減法	10	第4章　比例と反比例 反比例 比例と反比例の利用
5	乗法と除法	11	
6	第2章　文字と式 文字を使った式 文字式の計算	12	第5章　対称な図形 対称な図形 基本の作図 図形の移動
7	第3章　方程式 方程式 1次方程式の利用	1	第6章　空間図形 いろいろな立体 立体のいろいろな見方 立体の表面積と体積
9		2	第7章　資料の散らばりと代表値 資料の散らばりと代表値
10	第4章　比例と反比例 比例	3	近似値と有効数字

◇評価

① 数学に関する関心・意欲・態度・・・・・・・・・・・25%
・授業中の態度や質問に対する積極的な発言等を評価します。
・ノートは、板書を写してあればBの評価です。口頭で説明した内容等を入れるなど、工夫してあればAの評価になります。
・ワークは、指定された範囲を自分で解き、○付けや間違い直しが丁寧にしてあればAの評価になります。
② 数学的な見方や考え方・・・・・・・・・・・・・・・25%
③ 数学的な表現・処理・・・・・・・・・・・・・・・・25%
④ 数量・図形などについての知識・理解・・・・・・・25%
＊②③④に関しては、中間考査、期末考査、小テスト、提出物等で評価します。

数学科の学習の進め方を伝える1年生のシラバス。授業の進め方だけでなく、家庭学習やテスト前の学習を一人で進めるポイントも説明している

図4　夏休みと冬休みの前に配布する「学習の記録」1年生数学の例

平成22年度　学習の記録（ 1年 数学 ）

1年　組　番　氏名

1. 自己評価

【取り組みの目標】	【評価】
忘れ物をしない（教科書・ノート・ワーク・ファイル・宿題）	
授業開始の準備ができている（教室移動、チャイム着席）	
おしゃべりや居眠りをせず、集中して授業に取り組む	
授業中、積極的に発言をする	
ノート・ワーク・サポーターなど期限を守って提出する	
家庭学習に取り組む	

	【内　容】	【理解度】
正負の数	整数・自然数・数の大小（不等号）・絶対値	
	加法・減法	
	乗法・除法	
	四則・分配法則	
文字と式	文字を使った式の表し方（積・商）	

A：よくできている（80%以上）
B：だいたいできている（50%～80%）
C：努力が必要である（50%未満）

頑張ったこと

努力しようと思うこと

2. 学習および提出物等の状況

観点	【内　容】	【評　価】
関	前期中間考査（25点満点）	A　B　C
表	前期中間考査（48点満点）	A　B　C
知	前期中間考査（27点満点）	A　B　C
関	小テスト③（4点満点）	A　B　C
表	小テスト①②③（26点満点）	A　B　C
知	小テスト①②（9点満点）	A　B　C
関	ワーク提出（P. 2～9、GW中の宿題）	A　B　C　未
関・見	ワーク提出（P. 10～27、前期中間考査後）	A　B　C　未
関	ノート提出（前期中間考査まで）	A　B　C　未

＊観点
関：数学への関心・意欲・態度
見：数学的な見方・考え方
表：数学的な表現・処理
知：数量、図形などについての知識・理解

＊評価
A：80%以上できている
B：50%～80%できている
C：50%未満のため、努力が必要である
未：未提出

◇提出物

観点	【内　容】	【提出状況】
関	サポーター（1・2）	
関	サポーター（7・9）	

○：提出
△：期限遅れで提出 または 再提出
未：未提出

3. 担当からのコメント

	基本的な内容の理解がほぼできています。この調子で頑張りましょう。
	理解が不足しているところがあります。家庭学習を大切にしましょう。
	授業に集中して取り組みましょう。（私語、居眠り等）

1年生数学の「学習の記録」。学習姿勢・学習態度に関する自己評価を記す欄のほか、「担任からのコメント」を記す欄もある。自分の学習状況を細かく把握できると共に、教科ごとのガイダンスや三者面談の資料としても活用できる

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第3回

中学校導入期に学習習慣を定着させる

分が弱いのか』など自覚しやすくなっています。学習の記録の作成を始めてから、通知表の評価についての問い合わせがほとんどなくなりました」（斉藤校長）

「心」を育てる教育で、生徒の「出来る」という気持ちを引き出す

生活習慣や学習習慣の指導と並行し、同校が力を入れるのが「心」を育てる教育だ。生徒が褒められたり、認められたりする場面を数多くつくり出して自己有用感を高め、何事にも前向きに取り組む姿勢を育てる。

「かつて生徒の間に問題行動が目立った時期は、生活態度や学習規律について教師や保護者から叱られ、更にやる気をなくしていたのだと思います。そのような悪循環を断ち切り、逆に褒められる場面を増やすことにより、『自分にも出来る』という気持ちを育てたいと考えています」（中村先生）

代表的な取り組みが「銀杏募金」だ。毎年、校内のイチョウの木から得られるギンナンを集め、募金をしてくれた保護者や地域住民にお礼として銀杏を贈る寄付活動だ。全校生徒が積極的に取り組み、08年度には「生徒会が中心となった特色ある募金活動」として東京都教育委員会から表彰された。

一連の取り組みの成果として、校内は落ち着きを取り戻し、学力も着実に向上している。狛江市が毎年4月に実施する国語と算数の学習状況調査では、近年、市の平均を上回るようになった。

生徒が学習に向かう姿勢が整ったという判断から、10年度には家庭学習の定着に向けた指導を本格的に始めた。10年度版のシラバスの巻末には、毎日、家庭学習とメディア接触時間（テレビ・ゲーム・携帯電話・マンガなど）を記録するシート「家庭学習の記録」が加えられた（**図5**）。1時間ごとにマス目を塗りつぶすことで、家庭学習とメディア接触のそれぞれに費やした時間を対比させるつくりにした。

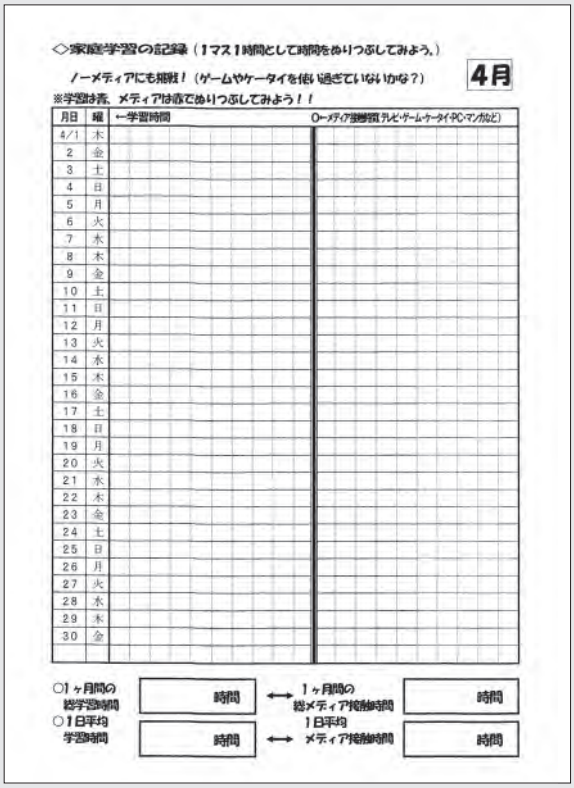
「放課後、生徒は部活動や塾などがあり、かなりの多忙感があります。しかし、自ら学びを深めていく力を育てるには、家庭学習の定着は欠かせません。そこで記録シートを通して、テレビやゲーム、携帯電話といったメディアに触れる時間の長さを自覚させ、家庭学習の時間を少しでも確保したいと考えています」（中村先生）

これまで、宿題は教科ごとに統一されていなかったが、今後は教師が情報を共有して毎日の宿題の量を調整していく考えだ。

同校が最終的に目指すのは、主体性を持って学習し、たくましく生きることの出来る生徒の育成だ。

「今の社会はあらゆる面で便利になり、あまりものを考えなくても生活できてしまう状況にあります。だからこそ、生徒に対して、適切な課題やプレッシャーを伴う環境を与えることによって、自主的に考え、行動する力を育てていきたいと考えています」（斉藤校長）

図5　「家庭学習の記録」


◇家庭学習の記録（1マス1時間として時間をぬりつぶしてみよう。）
ノーメディアにも挑戦！（ゲームやケータイを使い過ぎていないかな？）
4月
※学習は青、メディアは赤でぬりつぶしてみよう！！

月日	曜	←学習時間	0→メディア接触(テレビ・ゲーム・ケータイ・PC・マンガなど)
4/1	木		
2	金		
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		
11	日		
12	月		
13	火		
14	水		
15	木		
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		

○1ヶ月間の総学習時間　時間　←→　1ヶ月間の総メディア接触時間　時間
○1日平均学習時間　時間　←→　1日平均メディア接触時間　時間

家庭学習の時間は左側、メディア接触の時間は右側のマスを、1時間につき1マスを塗りつぶす。毎月、集計して生徒に結果を伝える